

製品名: Stat5 (リン酸化 Ser726/731) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05484**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	90kDa

抗原情報

遺伝子名	STAT5A/STAT5B
別名	STAT5A; STAT5; Signal transducer and activator of transcription 5A; STAT5B; Signal transducer and activator of transcription 5B
遺伝子 ID	6777.0
SwissProt ID	P42229/P51692
免疫原	抗血清は、ヒト STAT5B の Ser731 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 697-746

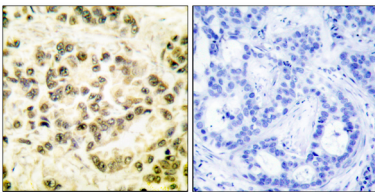
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、転写因子 STAT ファミリーのメンバーです。サイトカインや成長因子に反応して、STAT ファミリーのメンバーは受容体関連キナーゼによってリン酸化され、その後ホモ二量体またはヘテロ二量体を形成して細胞核に移行し、そこで転写活性化因子として作用します。このタンパク質は、IL2、IL3、IL7、GM-CSF、エリスロポエチン、トロンボポエチン、そして様々な成長ホルモンなど、多くの細胞リガンドによって活性化され、それらの反応を媒介します。TEL/JAK2 遺伝子融合に関連する骨髄腫およびリンパ腫におけるこのタンパク質の活性化は、細胞刺激とは無関係であり、腫瘍形成に必須であることが示されています。この遺伝子のマウスにおける同等のタンパク質は、BCL2L1/BCL-X(L)の発現を誘導することが判明しており、これはこの遺伝子が細胞内で抗アポトーシス機能を持つことを示唆しています。選択的スプライシングによって転写されたバリエーションが存在します。機能:シグナル伝達と転写の活性化という2つの機能を果たします。GAS エlementに結合し、PRL 誘導性転写を活性化します。、オンライン情報:STAT5 エントリ,PTM:IL-2、IL-3、IL-7、IL-15、GM-CSF、成長ホルモン、プロラクチン、エリスロポエチン、およびトロンボポエチンに反応してチロシンがリン酸化されます。チロシンリン酸化は、DNA 結合活性および二量体化に必要です。セリンリン酸化も、転写活性を最大化するために必要です。、類似性:転写因子 STAT ファミリーに属します。、類似性:1 つの SH2 ドメインを含みます。、細胞内位置:リン酸化に応じて核に移行します。、サブユニット:関連ファミリーメンバーとホモ二量体またはヘテロ二量体を形成します。NR3C1 に結合します (類似性による)。NCOA1 および SOCS7 と相互作用します。

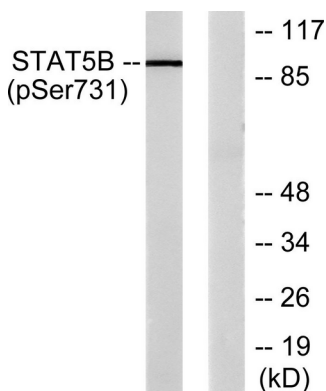
研究分野

ErbB_HER;Jak_STAT;がんにおける経路;慢性骨髄性白血病;急性骨髄性白血病;

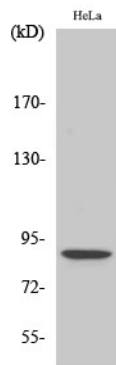
画像データ



STAT5B (リン酸化 Ser731) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



EGF 200 ng/ml 30 分処理した RAW264.7 細胞のライセートを STAT5B (リン酸化 Ser731) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



Phospho-Stat5 (S726/731) ポリクローナル抗体 (1: 500 希釈) を用いた各種細胞のウェスタンブロット解析